

① スマートシティ構想（案）について

- ・ 基本理念・基本原則（ルールづくり）
- ・ 令和４年度に取り組むプロジェクトの対象領域（リーディングプロジェクト）

② スマートシティの推進体制について（市民参加の仕組み）

本日の議論のテーマ

令和 2 年度

令和 3 年度

Plan

スマートシティ構想

①

基本理念・基本原則（ルール）
リーディングプロジェクト

本日の市民対話

令和 4 年度

Do

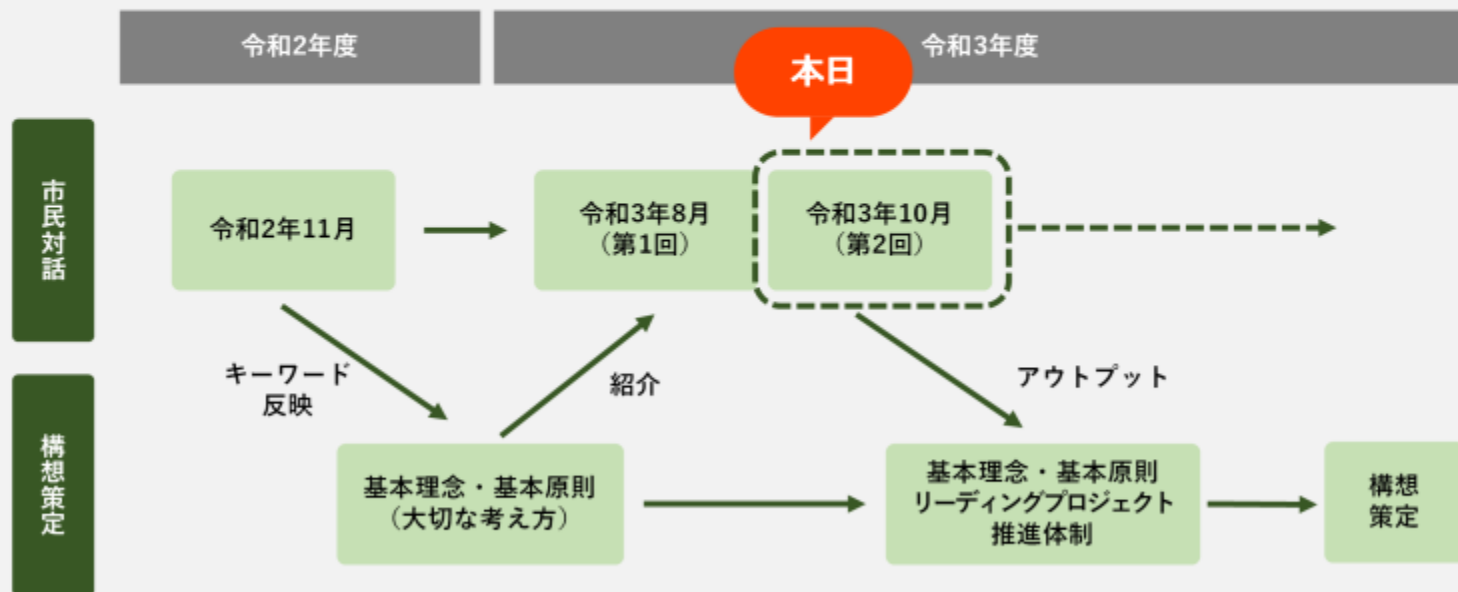
市民参加の仕組み

②

共創のHOW？

全体像

市民対話からスマートシティ構想策定までのプロセス



スマートシティ構想 構成（案）

1 構想の概要

- (1) 策定の趣旨（目的・将来像）
- (2) 各計画との位置づけ、期間
- (3) 対象区域

2 鎌倉市を取り巻く環境の変化

- (1) 鎌倉市の状況
- (2) 社会情勢・技術動向（ポストコロナ・ニューノーマルを加味）

3 基本理念・基本原則

4 スマートシティの推進体制

5 リーディングプロジェクト

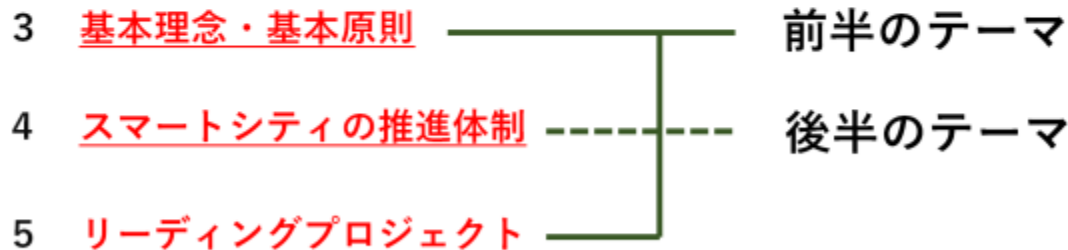
スマートシティ構想 構成（案）

1 構想の概要

- (1) 策定の趣旨（目的・将来像）
- (2) 各計画との位置づけ、期間
- (3) 対象区域

2 鎌倉市を取り巻く環境の変化

- (1) 鎌倉市の状況
- (2) 社会情勢・技術動向（ポストコロナ・ニューノーマルを加味）



スマートシティ構想 構成（案）

1 構想の概要

- (1) 策定の趣旨（目的・将来像）
- (2) 各計画との位置づけ、期間
- (3) 対象区域

2 鎌倉市を取り巻く環境の変化

- (1) 鎌倉市の状況
- (2) 社会情勢・技術動向（ポストコロナ・ニューノーマルを加味）

3 基本理念・基本原則

4 スマートシティの推進体制

5 リーディングプロジェクト

アンケート調査

スマートシティに期待する点、懸念点

1

共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査

- 調査地域 鎌倉市全域
- 調査対象 満 18 歳以上の市民
- 調査対象数 4,000 人
(各 2,000 人の A グループ / B グループ)
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査時期 令和3年4月～5月
- 調査方法 調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答・満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答

「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」

単純集計結果

【注】

1. 新型コロナウイルス流行による影響について…………… P.2
2. インターネット・情報通信機器の利用状況について…………… P.4
3. スマートシティと行政のデジタル化の推進について…………… P.21
4. 鎌倉市の価値観について…………… P.29
5. 鎌倉市の推進する共生社会について…………… P.38
6. 地域活動への参加について…………… P.45
7. マナーや関心と価値観について…………… P.46
8. あなたの考え方・価値観や、あなた自身のことなどについて…………… P.51

■ 調査の概要

調査地域	鎌倉市全域
調査対象	満18歳以上の市民(2021年3月1日時点)
調査対象数	4,000人(各2,000人のAグループ/Bグループ)
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答 ・ 満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答 (ただし、郵送回答希望者には郵送調査票を送付) ・ 満 65 歳以上は郵送配布・郵送回答 → 回答率向上策へ
	Aグループのみ、回答率を向上させる複数の方法を検討した
	① 事前能力検閲 調査対象者に、回答依頼の4日前に、調査対象者になった旨を通知し、能力を検閲。
	② 督促 調査依頼後、未回答の対象者に改めて能力を要請するとともに、督促を結果。
	③ 通知 締切までに回答を頂いた回答者には、お礼カード 300 円分を贈呈。さらに、早割回答者(郵送後 9 日以内)には 200 円分を追加し、全体の回答率目標(70%)を達成した場合には、全回答者にさらに 200 円分を贈呈。
調査期間	4月16日(金)～4月30日(金)
	・ Aグループのみ、督促実施後 5 月 21 日(金)に締結
回答結果	Aグループ1,186名(回答率59.4%) / Bグループ6,094名(回答率30.5%)

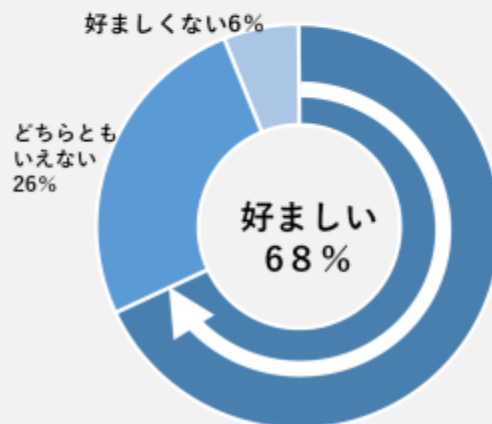
■ 調査の目的

各団体の調査には賛同を頂いておりますが、A ではないを選んだ人を対象とした調査に、賛成 A ではないと選んだ人が含まれている場合など

共生社会の実現に向けた スマートシティの推進に関する意識・価値観調査

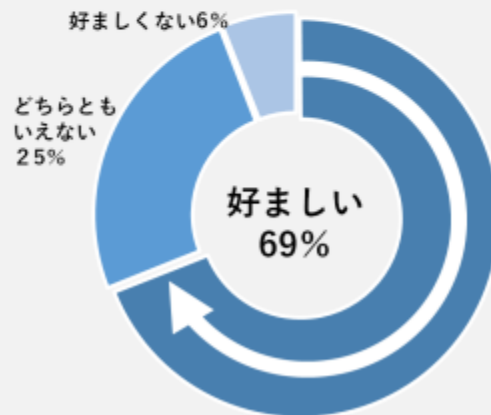
Point 1

社会のデジタル化の進行に関して、どのような印象を持っているか



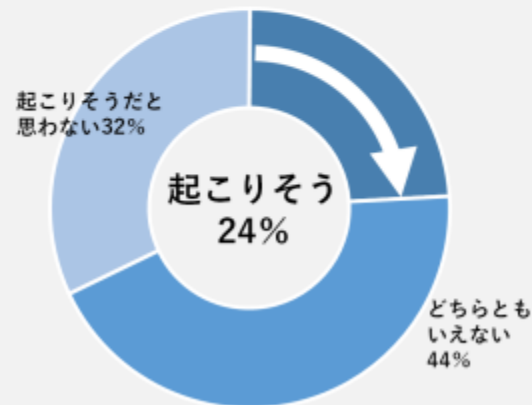
Point 2

鎌倉市がデジタル化を推進することに関して、どのような印象を持っているか



Point 3

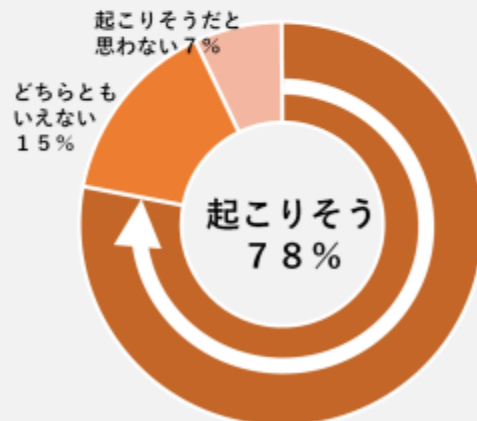
一人ひとりに合わせたサービスが可能になり、社会から孤立する人が減る



共生社会の実現に向けた スマートシティの推進に関する意識・価値観調査

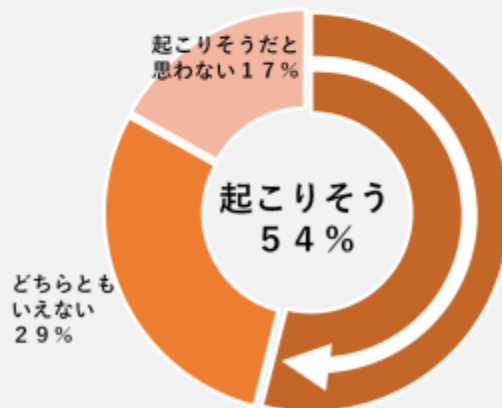
Point 1

個人情報やプライバシーの
権利が脅かされる



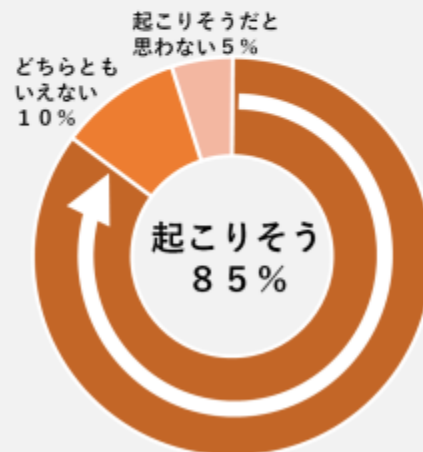
Point 2

触れ合いが減り、地域の
コミュニティが失われる



Point 3

経済的事情がある人や高齢
者などのICTの活用が困難
な人が不利になる



基本理念・基本原則（案）

誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる共生社会の実現を目指し
次の理念と原則に従い、テクノロジーやデータを活用したスマートシティの取組を推進します

基本理念

1

“市民起点”

市民ニーズや課題を起点にデータやテクノロジーを課題解決の手段として活用し、市民の生活の質の向上を目指す。

2

“共生の精神”

市民力・地域力を活かし、自然をはじめまちに関わる全ての要素を繋ぎ、地域課題を解決し、まちの魅力を高める。

3

“鎌倉らしさの継承”

古いものを大切にしながら、積極的に新しいものを取り入れ、新たな価値を築く。

基本原則

①

公平性・包摂性 社会的影響

▼誰一人取り残さない共生社会を実現するために、デジタルデバイドの解消に取組み、全ての市民が等しくデータやテクノロジーに支えられたサービスを享受できるように努めます。
▼鎌倉の文化や歴史を踏まえたWell-Beingを可視化し、定量的な評価を基に取組みを継続的に進化させます。

②

プライバシー 保護・透明性

▼個人情報保護の関連法令を遵守し、透明性の高いルールと手続きに従い、本人同意により個人情報の取得、提供（オプトイン）するなど、プライバシーの確保を徹底します。
▼市民の理解と信頼に基きデータの利活用に努めます。

③

相互運用性 ・オープン性

▼地域やシステム、分野の壁を越えた高度なデータやサービスの連携による相互運用性を確保し、サービスの全体最適化と新たな価値の創出を図ります。

④

安全・安心 ・強靱性

▼激甚化する災害やCOVID-19等の感染症、など予測困難な事態に直面した場合でも、最低限の都市機能や社会経済システムの継続性を維持しながら、早期に復旧できるレジリエントな体制を確保します。

⑤

持続可能性

▼新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、社会実装を見据え受益者を意識した事業設計を行うことで、運用面・財政面の両側面から持続可能性を確保します。

⑥

対話・共創 ・主体性

▼市民を中心に、産官学民のマルチステークホルダーによる主体的かつ能動的な対話と丁寧な合意形成を重視した取組を進めます。
▼合意形成にあたっては、データやテクノロジーの利活用に伴い発生するおそれのあるリスクや倫理的課題の明確化を徹底します。

スマートシティに対する懸念と基本原則

懸念

Point 1

デジタル格差の拡大の懸念

Point 2

個人情報やプライバシーへの懸念

Point 3

地域のコミュニティ喪失の懸念

基本原則

①

公平性・包摂性・社会的影響

▼ 誰一人取り残さない共生社会を実現するために、デジタルデバイドの解消に取組み、全ての市民が等しくデータやテクノロジーに支えられたサービスを楽しむことができるように努めます。

▼ 鎌倉の文化や歴史を踏まえたWell-Beingを可視化し、定量的な評価を基に取組みを継続的に進化させます。

②

プライバシー・保護・透明性

▼ 個人情報保護の関連法令を遵守し、透明性の高いルールと手続きに従い、本人同意により個人情報の取得、提供（オプトイン）するなど、プライバシーの確保を徹底します。

▼ 市民の理解と信頼に基づくデータの利活用に努めます。

⑥

対話・共創・主体性

▼ 市民を中心に、産官学民のマルチステークホルダーによる主体的かつ能動的な対話と丁寧な合意形成を重視した取組を進めます。

▼ 合意形成にあたっては、データやテクノロジーの利活用に伴い発生するおそれのあるリスクや倫理的課題の明確化を徹底します。